

第7日

令和6年6月19日（水）

午前10時零分開議

○議長（小島清人君） 皆様、おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

なお、本日の出席議員は18名で、会議は成立いたします。

議事日程表をお開きください。本日の議事日程については、タブレットに掲載のとおりであります。御了承願います。

一般質問通告書をお開きください。

それでは、日程に従い、18日に引き続き一般質問を行います。

それでは、14番柴山恭子議員の質問を許可します。14番柴山恭子議員。

（14番柴山恭子君登壇）

○14番（柴山恭子君） 皆様、おはようございます。昨日、徳永議員の挨拶の中に、松下幸之助の言葉に「何かをやり遂げるためには、そうなりたいと強く思うこと」と言われました。総体的にはあっていると思います。書き間違いがあったかもしれませんが、私もまさにそのとおりだと思います。強い思いは必ずや実現するのです。

私は、30年前の大型台風の被害で大平山の木が倒れてしまったとき、再び何としても大平山をみんなが登れる山にと強く思いました。予算がつき、大平山は市民の皆さんが楽しく登れる山となりました。元旦にはぜんざいなどの接待を、年3回の草刈り、月1回のトイレ掃除、何を気負わなくとも、大平山の整備はスケジュールどおりに進んでいきます。

私は、両親の下、この日本に生まれたこと、この朝倉で暮らせること、そして、この仕事をさせていただけることに、心から感謝をしております。今後も、こうなりたい、こうしたいという思いの中でこそ生きてゆき、実現させたいのです。市長や職員の皆さんの朝倉市への強い思い、みんなで力を合わせれば、すばらしいまちづくりができると信じます。

これより、質問席にて、前回に引き続き、個別避難計画等について質問いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

（14番柴山恭子君降壇）

○議長（小島清人君） 14番柴山恭子議員。

○14番（柴山恭子君） 個別避難計画についてお尋ねします。

補償制度について尋ねます。

災害対策基本法84条、市長が救急措置の業務に従事させた場合において、損害を補償しなければならないとあります。前回、朝倉市には、支援者本人の負傷についての条例がなく、制定について質問しましたが、答弁は、「共助の精神であり、助け合いの気持ちであり、法的な責任や義務を負うものでなく、危険が及ぶ状況の際に無理をしなくてもよく、心配なく活動していただけるよう、調査・研究し、制度が充実するように検討する」と答

弁されました。調査・研究の結果を聞きます。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） まず、3月議会におきましては、県への要望、また、保険制度の件、お話をさせていただいたところですが、県への要望につきましては、県南総合開発におけます国及び県の施策制度、予算に対する提言において、避難行動要支援者や支援者が避難時に負傷した場合の補償制度の整備を求めているところでございます。また、あわせて、保険の加入につきましても、こちら、具体的に検討するため、現在、保険会社から2社見積りを頂いているところでございます。以上です。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） どう検討されますか。まだ今は見積りだけですかね。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） 今、自主防災会を通しまして個別避難計画の作成をお願いしている中、避難支援における万が一の場合の補償をどうするのかという、市民の皆様、特に支援をする方の不安を軽減し、地域の防災力向上を早急に後押しする必要性を強く認識しております。早期に決定をいたしまして、改めて議会に相談をしていきたいと思っております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 前向きに進んでいると解釈してもよろしいでしょうか。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） そう解釈していただいて結構かと思えます。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 部長は、日田市の避難計画は知っていますか。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） 日田市の個別避難計画書の様式自体は見ておりませんが、作成については存じ上げております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） すばらしいものです。しっかりとみんなで勉強して、朝倉市もこのような個別避難計画ができるような形で前に進んでほしいと思いますが。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） 現在、朝倉市のほうでお願いしております個別避難計画について、自主防災会のほうにお願いしております支援者情報でありますとか、避難場所、避難経路、そちらのほうをお願いということで、おっしゃってありますことが医療ケアの関係とか、そういうような方々の情報も十分入ったようにということだと思います。そういうことも今後を含めて、調査の仕方について、依頼の仕方についてを検討していきたいと思っております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） これから言います。答弁の折に、避難行動要支援者名簿、身体状況チェック欄と聞き取り調査の現状について、この前の答弁のときに、避難行動要支援者名簿登録、個別避難計画作成同意等調査に、身体状況のチェック欄があり、医療的ケア、寝たきり、歩行困難など、確認チェックしていただき、さらに聞き取りをして、その状況などを確認し、名簿の作成に生かしていくとあります。今後、訪問看護ステーション、北筑後保健所、市で協議をし、考えていくとの答弁でした。

先日、コミュニティの会議の中で、ある区会長からの意見を御紹介いたします。「自分の地域では、全介護の要る方、医療的ケアで幾つも電源がいる方、透析が必要な方などに対し、自分たち素人がどうしたら対応したらよいか。自分たちではできないだろう」、「聞き取り調査の段階から、市として、ケアマネジャーなどの専門職が対応すべきではないか」と言われましたが、この件に対して部長はどうお考えでしょうか。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） 今回依頼しておりますものが3月議会の時点で発送しておりましたので、対応については来年度、また次回の調査からということになることを御理解いただきたいと思います。

今、各自主防災会によって同意を得ました要支援者情報の調査を頂いた今年の結果または課題を集約しまして、改善点を具体的にしていきたいと思います。

また、今後の調査の方法ですけれども、この間した調査のほうが、同意を頂いた方を自主防災会にそのままお渡ししてお願いするという方法でした。

今後、専門性を有する医療的ケア対象者でありますとか、要介護認定者、福祉サービスを利用している障がいがある方など、別途、個別避難計画と同様の計画を作成している場合もあります。このような実態を関係課で情報共有をした上で、個別避難計画を作成することで、自主防災会にお願いするのか、または、専門家に作成をお願いする必要があるのか、まず前もってしっかりと確認し、作成を進めていきたい、調査をお願いしたいというふうに思っております。

なお、本年度依頼している個別避難計画の作成におきましては、医療的ケア等で避難支援が困難な方につきましては、防災交通課に連絡していただきまして、関係課でケース会議等を持ちまして、改めて避難支援方法を検討していきたいと思っております。以上です。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） よかったです。まだ保険のことははっきりしませんが、はっきりすることでしょう。しかし、もし保険に入る前に何らかのそういう支援をしなければならなかったときに、もし事故が起きたとしたら、そのときは前面に市長なり課長なり部長なり、誰かが前面に立ってその解決をしてほしいと思いますが。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） 平成29年7月九州北部豪雨災害の実例で申しますと、それは物に対する損害を人命捜索のときに与えたという事件もありまして、それにつきましては、市のほうで損害賠償の議案を上げましてきちんと補償させていただいたと、そういうふうな姿勢で臨みたいと思っております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） お尋ねします。次に、福祉避難所についてお尋ねいたします。

指定避難所の中に福祉避難所のスペースを確保し、それでも難しいと判断されれば、福祉施設などとの協定を結んでいるとの答弁でした。個別避難計画に情報が全て書かれてあれば、どう動けばいいか、また、専門家などとの話し合いもできるのではないかと思います。

先ほどの答弁で、この辺りは大分前に進むとは思いますが、個別避難計画の中に、やっぱりこの人はどこに行くべきだということもあると思うんです。日頃から利用している施設だとか、そういうところをきっちり書いていくような形で個別避難計画書ができればと思いますが、どうお考えですか。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） 医療的ケアが必要な方であるとか、そういうケースにつきましては、訪問看護ステーションで災害時の個別支援計画を作成してあるという状況もあります。そういうようなものを、今後、その方たちはそういうふうな訪問看護ステーションで案内する方が決まっているのかまで確認した上で、自主防災会にもお願いしなければならないケースがあれば、そちらにもまた改めてお願いするというふうなことで考えていきたいと思っております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 地域の皆さんは、見える方とともに一緒に避難をさせるという形で動けばいいと思いますので、何としてもプロの手を借りながら、そういう避難計画を立てていただきたいと思います。よろしくお願いします。

次に、朝倉市公式LINE回覧板機能についてお尋ねいたします。

回覧板機能を追加した運用も調査・検討するとありました。避難情報に限らず、地域の情報伝達手段としてスマートフォンを活用したツールは非常に有効だと考えます。そういったものを導入していただけるよう取り組んでいってほしいと思います。

そこでお聞きしたいのは、地域の有線放送、地域コミュニティ無線システム——杷木でしてありますよね——それから、スマートフォンの活用、これの違い、利点、欠点らが分かりましたら。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） 有線放送と無線放送の利点、違いというのは、断線があるとか、断線がないとか、そういうようなことは一番メリット、デメリットになるかと思います。また、スマートフォンにつきましては、一斉に世帯でなく、個人個人に向けて情報発

信ができるというのは大きいメリットだというふうに考えておるところでございます。以上です。

地域コミュニティ無線ですか。地域コミュニティ無線につきましては、行政から発信する一斉の情報だけではなくて、地域コミュニティ、局地的な雨とかがある場合に、コミュニティから発信できるというメリットはあるかというふうに考えております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 有線は線が切れてしまうというデメリットがありました。スマートフォン、それから、地域コミュニティ無線の欠点は。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） 地域コミュニティ無線の欠点と申しますと、利用料がどうしても負担が個別にかかるというふうなことはあると思います。スマートフォンにつきましてはの欠点というのは、まだスマートフォンの普及率が100%ではないという状況もありますので、全て全員の方に伝わるということができない状況もあるということがデメリットになるかと思えます。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） スマートフォンでやりたいんですよね。そうでもない。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） 現在、スマートフォンの所持率、そちらのほうは100%ではないので、まずはそこが過渡期になっているのかなというふうには思いますが、行政としては、まず、今、公式LINEの追加機能等をコミュニティのほうに御案内して回っておりますけれども、そちらのほうで進められればというふうに考えているところでございます。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 立石の人口を思いますと、スマートフォンを利用したりしたときに、どんな形で住民にこれを伝達すべきですか。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） すみません、どんな形でというのが間違っているかもしれませんが、まず、LINEの追加機能、地域の回覧板機能というものは、一つは、行政から一斉に市民の方に情報提供ができます。また、追加機能として、拡張機能といたしまして、コミュニティ事務局長なり、会長なり、行政が登録をした方から地域コミュニティの住民の方へお知らせが別途にできるというようなことが違う形になるかと思えます。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） だけん、どげんしたらそれが実現できる。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） 今の公式LINEで、市が加入している形に拡張機能で公

式——公式じゃないです。すみません。地域の回覧板機能のほうを備え付ければ、それが可能になるということでございます。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 個人では何もしなくていい。市からの回覧板機能をもってすれば、個人は何もしなくてもその機能は入ってくる。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） 受けられる個人個人についても、登録をしていただくという必要があります。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 登録はどのような形で。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） 個人個人の方がスマートフォンで加入をしていただくという形になりますが、これをするときには、行政側からの、それが困難、難しいという方には手助けが必要かというふうには考えております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） その手助けはできますか。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） 頑張ってやっていきたいと思っています。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 頑張ってやっていただきたいと思いますが、これはいつ頃までにできると考えられていますか。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） 現在、まだ予算措置もしておりませんので、その辺りについては決定を見次第、また予算の議会への相談という形になるかと思っております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） それはいかん。大体いつ頃をめどにこういうことをやりたいと思っておるということが要るでしょう。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） すみません、議会への相談が必要ですので、いつとは言いきれませんが、できるだけ早いうちに決定をしていきたいと思っています。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 多分、分かりませんよ、私個人の意見では、議会にかけてくれば特別反対する人はいないと思われますが、違いますか。思っておる、反対する人がおると。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） 御賛同いただけるというふうには判断しておりますが、申し訳ありません、これ以上は言えません。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 強い思いがなければ、事は前に進まないと最初に言ったでしょうが。強い思いが少ないと前には進みませんので、強い思いを持って住民への情報提供をよろしくお願いしたいと思うんですが。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（梅田 功君） この公式LINEの追加機能含めまして、緊急放送でありますとか住民の皆様への情報提供の多重化というのは必要であると思いますので、強い思いを持って取り組みたいと思います。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） よろしくお願ひします。

次に、朝倉市身体障がい者福祉協会の存続に向けての対策についてお尋ねいたします。

今年度、身体障がい者福祉協会立石支部の総会に招かれまして、友岡会長より、会員の減少が顕著であり、この問題に何らかの突破口をとというお話がありました。会長としては、手帳交付の際、協会入会の推進ができるのではないかと考えを持ってあります。また、長崎ではそのようなことが行われているようです。

手帳を持つ人に話を聞いてみたのですが、福祉事務所も交付時には伝達事項が多く、そこまでできなかったのではとのことでした。今はしてあるんですか。今はしてありますか。

○議長（小島清人君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（草場 勉君） 手帳交付時ですとか、有料道路の通行料金の割引申請時などに、会員募集のチラシを窓口で配布している状況でございます。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） そのことは言われませんでしたので、いろんな紙ベースのものがありましたから、チラシがその中に紛れ込んで、会長もあんまりぴんところれなかったのかもしれない。でも、一言「入ってください」というような声かけもよろしくお願ひいたします。

○議長（小島清人君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（草場 勉君） 手帳の交付の際につきましては、お相手の方に説明することが多岐にわたっておりますので、声かけが難しい場面もございました。今後につきましては、努めて加入案内について声かけをしていきたいというふうに思っております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） お願ひいたします。何で私はこげんなことを思うかというと、同じ障がいを持っておる人や同じ病を持つ者同士、お互いの相談は非常に有意義なものと思うんです。私は、がんセンターで友人をつくり、ピワ茶、根菜のスープががんには効くら

しいなどのいろいろな情報やかつらの入手先、再生のやり方など、それなりのおしゃべりで癒やされたものです。福祉事務所として忙しくてなかなか手が回らないとは思いますが、さっき部長が言われたように、一声だけでも相談先としての仲間たちとの交流に声をかけていただきますように、よろしくお願いします。

職員の数を減らすというのが流れではありますが、それだけでは、行政はなかなかうまく回らんのではないかなと思っております。その日その日の仕事にあまりに追われると、相手を思いやる気持ちやいろんなことがなかなか言葉には出ず、難しいと感じますので、市長、大変とは思いますが、職員の皆様にもちょっとしたゆとりを持ちながら仕事に励めるような、そんな環境をつくっていただきたいと思います。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（林 裕二君） 職員がゆとりまではなくても仕事に追われっ放しということでは、本来の市民サービスということがどうしても手薄になったりすると、この例を今言われたんだろうというふうに思いますけれども、十分配慮して環境をよくしていくということに努めさせていただきたいと思います。

それから、今、議員御自身の経験を踏まえられて、福祉団体、身体障がい者福祉協会等が悩まれている話がありました。私も毎年、身体障がい者福祉協会、それから目の不自由な方、それから耳の不自由な方、一緒になって懇談したり御要望を聞いたりしながら解決に向けてやらせていただいています。その中でいつも言われるのは、もう一生懸命やるんだけど、どうしても情報がという話になります。これが一番の課題であるということです。

我々もそれは強く認識をしておりますして、少しずつ手帳交付のときにお見えになられた方、また、一緒に来られる方も含めて、身体障がい者福祉協会の存在、そして、協会に入っていていただく、協会の人たちとの交流ができるというような、いろんなことを私はよく分かりますので、そういったことについてしっかり分かっていたいて前に進むようにしていきたいというふうに思いますので、よろしくお願いします。ちょっと長うなりまして、すみません。よろしくお願いします。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 今、働き方改革が盛んに言われておりますが、やはり日々の仕事にあまりに追われ続けると、なかなか誰かを、人を思いやる気持ちにはなれませんので、その辺り、市長の答弁にうれしい答弁を頂きましたもので、皆さんもそのところを考えて仕事には励んでいただきたいと思います。ぎゃんぎゃんは言いますが、実はそう考えておりますので、よろしくお願いいたします。

次に、民生委員の負担軽減についてお尋ねいたします。

各地域において民生委員の仕事は多岐にわたり、健康課、社協、福祉事務所、子ども未来課、介護サービス課、どこまでの仕事を引き受けるのか。仕事の範囲を明確にはできないのか。あまりにもアバウト過ぎるのではないのか。本来、民生委員の仕事は、住民と行政

など専門機関への引継ぎを原則とすると聞いております。心配事は全て民生委員へなど、なかなか苦勞してあるようです。民生委員の仕事についてお尋ねをいたします。

○議長（小島清人君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（草場 勉君） 少子高齢化が進みまして、人間関係の希薄化などを背景に、社会や家族の姿は変化し、福祉におけるニーズも多様化・複雑化しておりまして、民生委員の皆様には、日頃から大変御苦勞いただいておりますというふうに考えております。

民生委員の仕事・活動には、大きく分けて個別支援活動、地域福祉活動、民児協活動の3つがございます。

個別支援活動は、議員おっしゃるとおり、地域の身近な相談窓口として、高齢者の安否確認、困り事に対する相談対応や助言、市や関係機関へのつなぎ役などの活動を行っていただいているところでございます。この中で市から依頼しております業務といたしましては、生活保護、児童扶養手当、緊急通報システム、配食サービスなどの申請をする際に、意見書や証明書の記入をお願いしているものでございます。

地域福祉活動につきましては、コミュニティ協議会、町内会など、地域での活動でございまして、例えば、青パト巡回や挨拶運動、配食弁当などのお世話をされているというふうに考えております。

民児協活動ですけれども、連合体であります朝倉市民児協や県民児協主催の研修会等への参加、また、各地区民児協の定例会や地域行事への参加などがございます。

以上が、大きく分けましての民児協のお仕事だというふうに認識しております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 民生委員の立石なら立石の町に関わる人の研修会とか地域の話合いというのは、年間何日ぐらいあるものでしょうか。

○議長（小島清人君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（草場 勉君） 定例会で申しますと、会長会は月1回、市の事務局出席の下、行われております。あと、各地区の民児協につきましては、定例会が月一であるというふうに聞いております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 私の元には、毎日のようにいろいろな会議があつて出ていかなくてもならないというような意見も聞いておりますが、やっぱり民生委員それぞれの方で違うのでしょうか。月2回出ればよいということでしょうか。

○議長（小島清人君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（草場 勉君） そういった定例会のほかに、先ほど申しましたように、地域福祉活動におきまして地域で行われる福祉活動に参加されまじたり、民児協主体での活動で地域での行事への参加はしていられっしゃるというふうに思っております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 例えば、一人暮らしの高齢者が「私はごみが出し切らんけん、ちょっと出しちよってくれんね」と言われたらどうします。

○議長（小島清人君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（草場 勉君） 議員おっしゃいますとおり、各地区においての民生委員の仕事は、失礼いたしました、多岐にわたりまして、議員おっしゃいますように、高齢者の方から庭木の剪定とかごみ出し、蜂の巣の撤去ですとか、救急車への同乗、中には夫婦げんかの仲裁をしてくれとか、そういった明らかに民生委員の活動の範囲外のお願いをされることもあるということは承知しております。これらについては、本来、民生委員の仕事ではないということにつきましては、民児協の中での説明や現在作成しておりますQ&Aでもお知らせをしているところですが、なかなか民生委員さんにとって断りづらいということで、そういった実情もあつてされているということは承知しております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 今後も民生委員に過重な負担がかかり過ぎれば、民生委員の選出も難しくなるのではないかと思われるんです。だから、その辺り、もう言えませんが、でも。本当に困っちゃう人のところに行って何か言われたときに、それはうちの仕事じゃないけんされんばいっちゃあなかなか言われんけん、その辺りはちょっと話し合ってください。私もこればかりはどげん言ってもいいか分からんので。

それから、民生委員1人に対して大体120人から280人まで、いずれかの世帯ごとに民生委員・児童委員1人となっているようですが、担当者の人数の把握はできておりますでしょうか。そして、さっきの仕事の内容の話合い、それから、民生委員が足りない地域とかいうことも分かっているのでしょうか。

○議長（小島清人君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（草場 勉君） 民生委員お一人の方が担当する地区での人数、世帯数、高齢者数等については、常に把握に努めておるところでございます。議員おっしゃいますとおり、国の参酌基準では、民生委員1人当たりの担当世帯につきましては120世帯から280世帯の間となっております、これに高齢化率ですとか世帯構成、地理的条件などを勘案し、決定するようになっております。国の基準として定めております上限280世帯を超える地域が複数地区ございます。特に新築やアパートの建設により世帯数が急増しております立石地区が多いことも承知をしているところでございます。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） これは、私が頂いた民生委員・児童委員配置状況です。これから見ますと、立石では14人、柿原、堤、来春、一木、頓田が280人を超しているものと思われますので、立石としてはやはり民生委員の、何とか民生委員を増やしてほしいと考えております。これは民生委員のほうからまたお話があると思いますが、ここで一番大事なことは、前にもあったんですが、役所として増やしました、民生委員を。「おたく増やしまし

たよ」と言ったときに、民生委員を今度はつくれないんです。やっぱり民生委員の負担が重過ぎて成り手が無いというところがえらい大きいんです。だから、何というか、言おうにもつくり切らんなら、一方に言うて増員されて、それを達成できんなら、また何年かはそれが言えんというようなこともありまして、なかなか難しいような問題です。でも、何よりも民生委員の仕事が重た過ぎるというのは大きくあります。今後、民生委員の成り手が全くなくなったらどうするかというような大きな問題もありますので、真剣に民生委員の仕事の在り方、それから、活動費などは考えていていただきたいと思いますが。

○議長（小島清人君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（草場 勉君） 民生委員の成り手不足につきましては、全国的にも大きな課題となっているところでございます。幸いにも、朝倉市におきましては、地域の御協力のおかげで、長年、充足率についてはおおむね100%を維持できておりますことに、深く感謝をしているところでございます。

議員言われますように、民生委員の仕事の負担軽減につきましては、市としても重要な課題と認識しております。今後とも、民生委員さんの御意見をお伺いしながら、朝倉市民児協とも連携し、取組を進めていきたいというふうに思っております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） もう一点、活動費。これは言うなと言われましたが、ある程度の活動費は必要になるのではないかと思います。

○議長（小島清人君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（草場 勉君） 民生委員の金銭的な負担につきましても、当然、重要な課題というふうに認識しております。本年度から民生委員さんの一月当たりの民児協に対します負担金の軽減とかも行いまして、その分、補助金を若干増やしておつたりの措置はしております。今後とも、どうあるべきかというのを他市の状況とかを見まして調査・研究をしていきたいというふうに思います。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） すみません、どうぞよろしくお願いいたします。

次に、平塚川添遺跡公園活性化についてお尋ねをいたします。

部長、どんな平塚川添公園にしたいと強い思いで思っておりますか。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） どんな遺跡公園にしたいかということでございますけれども、まずは、遺跡公園ということでございますので、まずはその遺跡、その歴史的な価値というのを分かっていたきたいというのと、あと、広く公園として整備をしておりますので、多くの方々に、憩いの場でもありますし、いろんな体験もしていただけるような、そういう多くの方に来ていただけるような公園にしたいなというふうに思っております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 部長は、どうすれば多くの方々に来ていただけると思われますか。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） 平塚川添遺跡公園では、いろんなイベント等もこれまでも、昨年度でいけば23回イベントを開催しておりますし、今、小学校とか遠足で使っていたりとか、体験学習で来ていただいたりというようなことで、学びの場として使うということで、一定のお客さん、今、おいでいただいています。ただ、それだけではまだ足りないという部分がありますので、いろんなイベントだけというわけではないですけども、そういったものを増やしていければ、さらに利用が増えるのかなというふうには思っております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 事務所の前にフジバカマが植えてあって、あれにチョウチョが飛んできますよね。まだ飛んできていますか。今年は見ちょらん。今年はまだ見ちょらん。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） フジバカマを食べ物、餌としますアサギマダラ、去年、さなぎを見たということで確認はしております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 今年はもう宮崎先生はいらっしゃらないんですか。去年、宮崎先生と自分はこの辺りにフジバカマを植えたいと言われた場所がありました。そこは、あれは何かね、芝が生えていて、何か囲いをせんことには、その芝が繁殖してなかなかフジバカマが大きくなりだろと言われましたので、何とか、私はどっちかといったら、花壇よりも一株一株をあの中に植え込んだらどうやろかなとは思いましたし、私もあそこに苗を持っていこうと思って植えたんですが、今年は立派に苗が大きくなって、これは持っていかれるぞと思ったら、先日の道路愛護で草枯らしをまかれてしまいまして、枯れてしまったので、また新しく今度は道じゃなくて自分とこの花壇に植えました。多分、来年は——でも、難しいのは、道に植えたとき思ったんですが、水かけが大変なんです。植えたその年。明くる年はそげんでもなかったような気がします。植えたその年は水をかけるのを毎日かけないかんけん、そげなふうなのも負担になるかなと思いながら、もしかしたら一株一株、広い中に植えれば枯れんのじゃないかなとか、いろいろ思いました。

先日の部長も参加された、5月18日に行われました平塚川添遺跡史跡30周年記念シンポジウムが体験学習館で行われました。あの遺跡の保存と調査を求める要望書には、1万4,848名の署名が提出され、その後、平塚川添遺跡が国指定の史跡となったと書いてありました。言われました。あのシンポジウムは、当時の遺跡発見の感動と興奮をこげんやった、あのときはすごかった、新聞社はあげんやったこげんやったという、今に伝えるための内容でありました。私も、そげん多くの人の要望であそこはなったのかと感心させられました。

そして、もう一つ、パンフレットにもあったのですが、小石原川の氾濫源に営まれた集落・遺跡であるため、環濠内には水があると遺構の説明にありました。よって、水に浮かぶ弥生の村、集落を幾重にも回る環濠、どこにもない平塚川添遺跡、「ああ、そうやったとか」と思ったとです。川につながっちゃらんし、あの環濠は。汚い水が出るところも、中に入るところもない。何でかなと思ったら、あそこは氾濫のたびに水がたまって、水が出よったとかなと。だから、低ければそうなるのかなと思い——よく分かんず。これは私の考え。でも、今は地上げをして、あれが、環濠がにっちもさっちもいかん、水たまりになってしまったような感じです。それで、平塚川添遺跡は、何が一番すごいかといったら、やっぱり環濠でしょう。違いますか。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） 平塚川添遺跡の特徴ということでいけば、確かに議員がおっしゃられますように、低地で環濠に囲まれた集落があるということ、その集落の中でも、機能の分化といいまして、いろんな使い分けがあると、そういったことが非常に重要であるというようなことです。あと、ちょっと掘れば確かに水が出るようなところでしたので、集落内の排水を兼ねてそういう環濠を掘っていたといったところ、そういった特徴があるかなと思います。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 私は、この環濠、この環境を市民に知ってもらいたいと思ったと。何ができるやろうかなと思ったときに、やっぱり平塚川添遺跡は水やろうと思った。それは、アサギマダラが山んごつ来て、あそこにわんわん飛ぶ姿もすばらしい。でも、あの環濠がきれいな水で、子どもたちが遊びに来て、「おお、メダカがおる」とか「おお、何かがおる」とか、そういうふうに遊べるような環濠であれば来るんじゃないかなと思って。何と、間違っておりますか、あの環濠は30年間も掃除が全く行われていないんですか。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） 以前も浚渫等はやった経過がございます。一度、水を全く抜いて浚渫をしたりとかいったこともこれまではやってきておるところでございます。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） いつ頃ですか。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） 平成21年に一度やっております。（「何年ぐらい前」と呼ぶ者あり）10年ほど前ですか。十四、五年前ですか。

○議長（小島清人君） 質問を。（「すみません」と呼ぶ者あり）14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） それで、私の提案ですが、私は30年間もほったらかしちよると思うちよるけん。14年間ほったらかしと。そうですね。環濠の掃除を市民の手を借りながら共にできないかなと思っております。この公園のすばらしさを再発見するきっかけとなる

よう、多くの市民をまとめて環濠のお掃除をしていただけないかと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（小島清人君） 教育部長。

○教育部長（隈部敏明君） 14年間ほったらかしというふうにおっしゃられましたけれども、その後は平塚川添遺跡公園の職員で、細々ではありますが、やってきておりますので、誤解のないようお願いいたします。

それと、おっしゃられましたイベント的に浚渫をやれないかということでございますので、これについても、できれば多く人数をかけてやったほうが効率的にもいいと考えますので、実現に向けて検討したいというふうに思っております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 熱い思いでやればできんことはないんです。松下幸之助さんが言いなつた。熱い思いでやりましょう。できるよ。できんことはない。

市長は、この前、商工会議所の講演の中で、「市民とともにオール朝倉でお互いに力を合わせ、まず、行政がしっかりとやっていく」と言われました。市民の皆さんの力も借りてやっていきたいと思いますが、市長、どう思われますか。

○市長（林 裕二君） 先日の商工会議所のお話ですけれども、長うならんのがいいとでしょう、答弁は。（発言する者あり）背景がありまして、やっぱり災害から立ち上がってという前提があつて、そして、朝倉がこれから発展していくためには、我々行政だけではできませんから、やることは行政がしっかりやるんで、そして、経済団体の集まりでしたから、経営者の集まりでしたから、経済活動をしっかりやっていくということは極めて大事なので、そして、そういうことでオール朝倉でやっていきたいので、ぜひよろしく願いしますと、そういうお話をしました。

そこで、私も強い思いで、なせば成る、なさねば成らぬ何事も、成らぬは人のなさぬなりけりということで、考える男なんです。だけれども、これには限界がある。先にはどうかせないかん、どうかなるだろうという中であつても、その時点時点では、どうしてもというのは、行政を運営していくためにはやっぱり健全財政ですよということも、ちょっと併せてお話をさせていただきました。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） 全くそのとおりです。銭がなければ何もできん。銭があつてこそ何かができるから、その辺もよく承知しながら、この質問をしております。部長、頑張つてね。何としても私は掃除がしたい。そして、そのために力を尽くしたい。どうぞよろしくお願いします。

次に、甘木公園整備と保全についてお尋ねをいたします。

覚えております。私が議員の1年生のとき、何を言うたかといったら、甘木公園はこのまんまでいいとかと、ずっと言いました。児童公園じゃなくて児童の遊具施設、あれもあ

のまんまでいいとかと。このまんまでいいとかと。ベンチのごたあとが崩れようじゃねえとか。そうしたら、その当時の答弁は、どうもできんっちゃん。予算がない。誰かがしてくれんやろうとか、いろいろ言いました。便所議員と言われるほど、便所の話もしてきました。便所はなんか小学校、学校はなかなか整備が進むそうですが、ちょっと遅いね。遅い。もうちょっとばたばたと便所はしてほしい。

甘木公園はすばらしい公園だと私は思います。私はえらいやかましい言われたんです。展望台から先が展望台じゃねえじゃねえかと。あれは木の陰で見えんじゃねえかと言われて、登りました。そりゃあ立派——こっちから登ることが私はないんです。こっちから、バーベキュー広場から登って、展望台の先から左に曲がって大平山に登る。私はそっちからはあんまり登らんから、あの展望台はあんまり登りませんでした。だから、あげんやかましい言われたときに、やっぱりそうかもしれんな、登ったことがなかったけん悪かったなと思って登ってみしたら、彼には悪かったけど、ちいとは見えよるじゃねえかなと思いました。でも、えらい立派に整備してあるとよ。あれほどの公園はそうはなかろうと私は思います。

バーベキュー広場からこう登ったんですから、あれからすぐ行くと左側に、あれはツバキの木やろうか。肌はツバキのような肌です。葉っぱもちょっと厚めの葉っぱで、ツバキやろうか何やろうかと、きれいに剪定がしてあって、枝のあのつるつるがずっと見えてすばらしかったんです。どぶにもあまり葉っぱも、どぶというか、横の溝にも葉っぱが散らからんで、草刈りもようしてありました。私はすばらしい公園やなと思いましたし、福大の田中先生がスロージョギングに見えたときも、「すばらしい公園ですね。これほどの公園はなかなかありませんよ」というお褒めのような言葉も頂きました。でも、市民の皆様から言われた「展望台は、あれは展望台じゃねえじゃねえか」と言われたときに、自分があっちから大平山に登らんやったことをちょっと後悔しました。

そして、木を切るほどでもない。横のあれを刈ればいい、草を。下の草を刈ればいい。そして、ちょこちょこ枝を落とせば、その間から十分にあそこの景色は望めると思いましたけど、そして、話が飛ぶけれども、甘木公園を美しくする会であそこに掃除に行ったときに、すばらしいと思ったんです。遊具も新しいなっちょる。いろんなことも新しくなっちょる。よう手を入れてもろうちょると感心しました。もちろん、デッキもできたし、噴水もできた。噴水は電気代がかかるけん、あんまり上げ切らんっちゃなっただけど、とりあえずはいろんなことに取り組んであることがよく分かっております。それをもってしても、市民の皆様が展望台としては展望台の役目を果たしてくれとおっしゃいますので、申し訳ありませんが、あそこら辺の草刈りと枝打ちを、ちょっと保全のための予算を組んでいただけないでしょうか。

○議長（小島清人君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上政司君） 保全や維持管理の費用は、施設の整備等とは違いまして、

補助事業で対応することができませんので、市の単独予算というところで対応しております。限られた予算の中で、いかに効率よく管理していくかというところに苦慮しているところではございます。しかしながら、公園を利用される皆様が気持ちよく利用していただくというためには、やはり適切な維持管理というのが大事だろうというふうに思っているところではございます。再度、現地を確認いたしまして、計画性を持って工夫をしながら管理をしていきたいというふうに思っております。

○議長（小島清人君） 14番柴山議員。

○14番（柴山恭子君） どうぞよろしくお願いします。あの公園は朝倉の誇りです。あれほどの公園はない。もちろん、平塚川添遺跡も朝倉の誇りだと私は思います。あれほどの広いところに草刈りがきちんに行われて、家族で行ったときにシートを広げてお弁当を食べるにもすばらしいところです。甘木公園にしても、平塚川添遺跡にしても、私たちが大事にしなければならない場所です。市民の私はどっちかといったら、大平山をみんなの手で守っていききたいという強い思いもありましたが、丸山公園も、今、丸山公園を美しくする会もありますので、その事業にのっとなって、こういうこともしてみようかなどという話を住民と一緒にしていただければ、もっとすばらしい公園、もっとすばらしい遺跡となると考えますので、今後ともどうぞよろしくお願いします。

これで私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。市長、ありがとうございました。

○議長（小島清人君） 14番柴山恭子議員の質問は終わりました。

暫時休憩いたします。11時10分に再開いたします。

午前10時59分休憩